

神戸市立博物館開館30年記念
特別展 南蛮美術の光と影 泰西王侯騎馬図屏風の謎

[開催概要](#) | [展覧会内容](#) | [入館料金](#) | [図録](#) | [関連イベント](#)

小中大

平成24年(2012)4月21日(土)～6月3日(日) 39日間

※開館時間：

午前10時から午後5時まで
(入館は午後4時30分まで)
金/土曜日は午後7時まで開館
(入館は午後6時30分まで)

※休館日：

月曜日(ただし、4月30日は開館)

!! [会場の神戸市立博物館の所在・交通](#)

ジャパン・アート・レボリューション！

スペイン・ポルトガルによる世界進出が本格化し、その波は16世紀の半ばの日本にも到達します。これに触発されて、日本美術の革命的な新潮流「南蛮美術」が誕生しました。

1549年より日本で急速に普及していったキリスト教、特にその最大の修道会派・イエズス会の周辺では、多くの日本人画家が礼拝用の聖画を描く一方で、西洋画の写実的な表現で、日本の伝統的な屏風に描き込む作品も手がけました。日欧の交流は狩野派など伝統的な絵師たちにも大きなインパクトを与え、南蛮人(南洋からやってきた西洋人)の新奇なファッションや舶来品をモチーフとする斬新な絵画・工芸品が多く制作されました。

しかし、17世紀前半に日本は鎖国に転じ、100年も経たぬうちに南蛮美術はその命脈を断たれることとなります。多くの作品が過酷な禁教により破壊されましたが、代表的な超大作「泰西王侯騎馬図屏風」をはじめ、辛うじて伝世したものも少なくありません。南蛮美術の名品約100件が国内外から集結する、この展示を通して、近世初期の壮麗な美意識と、激動の歴史を体感してください。

★展覧会内容★

出品点数 約100件(うち、国宝1件、重要文化財24件を含む)

[本展覧会の出品目録・展示替え表](#)

☆会期中、展示替えがあります☆

主な作品の展示期間

全期間展示される主な作品

泰西王侯騎馬図屏風（重文） サントリー美術館・神戸市立博物館
 聖フランシスコ・ザヴィエル像（重文） 神戸市立博物館
 都の南蛮寺図 神戸市立博物館
 救世主像 東京大学総合図書館
 踏絵類（重文） 東京国立博物館
 長崎大殉教図 他 3面 イタリア内務省 宗教建造物基金（ジェズ教会）
 銅鐘 IHS紋入り（重文） 大本山妙心寺春光院

4月21日～5月6日に展示される作品

ポルトガル国王インド副王信書（国宝）
 妙法院
 南蛮屏風（重文） 神戸市立博物館

4月21日～5月13日に展示される主な作品

南蛮屏風（重文） サントリー美術館
 三聖人像原画・模写（重文） 東京国立博物館
 泰西風俗図屏風（重文） 福岡市美術館
 観能図屏風 神戸市立博物館

5月15日～6月3日に展示される主な作品

四都図・世界図屏風（重文） 神戸市立博物館
 万国絵図屏風 宮内庁三の丸尚蔵館
 南蛮胴具足（重文） 紀州東照宮
 泰西王侯図屏風（重文） 長崎歴史文化博物館
 南蛮屏風（重文） 大阪城天守閣
 南蛮屏風（重文） 南蛮文化館

5月22日～6月3日に展示される主な作品

レパント戦闘図・世界地図屏風（重文） 香雪美術館

★4月18日まで展覧会案内ページの「主な作品の展示期間」で《四都図・世界図屏風》《レパント戦闘図・世界図屏風》などの展示期間が誤って記載されていたので、訂正しました。深くお詫びいたします。なお、**本展覧会の出品目録・展示替え表**については訂正はありません。

※より多くの作品をご覧になりたい方は、**半券提示による「リピーター割引」や「ミュージアムカード」**をご利用ください。詳しくは**こちら**を！

展覧会の構成

第1章 はるかなる西洋との出会い

南蛮美術は、16世紀半ばから17世紀前半にかけて、日本とポルトガルやスペインとの交流にともなって生まれました。その絵画作品は大きくふたつにわけられます。ひとつはイエズス会の指導のもと、西洋画をまなんだ日本人が描いた「初期洋風画」、もうひとつは、狩野派など伝統的な絵師たちが、渡来した南蛮人の姿や珍しい貿易品を描いた南蛮風俗図です。後者を屏風形式に描いたものは、狩野派などの伝統的な絵師が在来の技法で描いていますが、異国との交流による新しい時代の幕開けを寿(ことほ)ぐかのような、活気と華(はな)やぎに満ちています。



南蛮屏風

伝狩野山楽筆 紙本金地著色 桃山時代 サントリー美術館蔵 重要文化財 (4月21日～5月13日に展示)

現在90件以上の現存が知られている「南蛮屏風」の中でも、傑出した色彩の美しさを誇る作品。右隻には日本の港町に入港する大きな南蛮船と上陸したカピタン（南蛮船の船長）、出迎える宣教師たちを描いています。左隻ではその母国とも思える異国で人々が集い、堂々としたアラビア馬を調教する場面も見えます。落款や印章はありませんが、樹木や岩石の表現から狩野山楽の工房で描かれたという説が有力です。

第2章 聖画の到来

1549年のフランシスコ・ザヴィエルの来日以来、その遺志を継いだイエズス会が布教をすすめ、これに並行して日本初の西洋画「初期洋風画」が描かれるようになります。イエズス会の周辺では、キリスト像や聖母子像など礼拝用の絵画を描くための日本人画家が養成されました。伝世品・没収品として辛うじて今日まで伝えられた聖画類で、近世初期の日本に到来したキリスト教図像の諸相を紹介します。

救世主像

慶長2年(1597) 1面 東京大学総合図書館蔵 (全期展示)

「サルヴァートル・ムンディ」とも呼ばれる、救世主としてのキリストの半身像。このような図像のキリスト像はヨーロッパのみならず、16世紀後半以降の日本でも典型的な礼拝用聖画として多く輸入・制作されました。左手にも十字架のつ



いた球体は世界を象徴し、右手で祝福を与えています。その指先のぎこちない描写から、イエズス会で学んだ日本人画家による作品と考えられています。国内で制作され、制作年が明らかなキリスト像の遺品としてきわめて貴重です。

第3章 キリシタンと輸出漆器

日本にやって来た南蛮人たちは、絵画ばかりではなく、工芸品でも新しい様式を生み出しています。たとえば、キリストや聖母子を描く小さな絵画を内側に納める扉付きの箱「聖龕(せいがん)」や、イエズス会の紋章があしらわれた書見台や聖餅箱(せいへいばこ)などは、日本の漆工品に魅せられた宣教師たちがそのミサや信仰のための用具を職人たちに注文制作させたと考えられます。



秋草蒔絵螺鈿聖龕（聖母子像）

桃山時代 サントリー美術館蔵（全期展示）

南蛮漆器の特徴を端的に表わす聖龕の好例。金銀の平蒔絵(ひらまきえ)を併用しつつ、螺鈿(らでん)を主体として、菊、萩、蜻蛉(とんぼ)など、秋を表現するモチーフが濃密に施されており、同時代の高台寺蒔絵(こうだいじまきえ)などとは異なるデザインセンスを示すことから、注文主である西洋人の趣味や嗜好を強く反映したものと考えられます。

第4章 泰西王侯騎馬図の誕生と初期洋風画

「泰西王侯騎馬図屏風」(たいせいおうこうきばずびょうぶ)は、流転(るてん)の歴史を経て、神戸市立博物館とサントリー美術館に、それぞれ4人ずつの王たちを描いた作品として現存しています。イエズス会周辺の日本人画家によって描かれた「初期洋風画」の最高傑作とされながら、その制作の経緯が謎に包まれているこの作品について、東京文化財研究所の協力による最新の光学調査を行い、その技法的な秘密に迫りました。また同時期に描かれた壮大な世界地図屏風や華やかな西洋風俗図の代表作も展示します。



泰西王侯騎馬図屏風

(上) サントリー美術館蔵 (下) 神戸市立博物館蔵 ともに重要文化財 (全期展示)

8人の異国の帝王を、ダイナミックかつエレガントに描いた、初期洋風画の超大作。その表現様式や図様のもととなった西洋製地図の年代から桃山～江戸時代初期(17世紀初期)の制作と推定され

ていますが、誰が何のために描いたのか、その経緯については不明な部分が多く残されています。今回の展覧会にあわせて行なわれた光学調査では、イエズス会周辺の日本人画家が関与した可能性があらためて確認されました。

★世界地図屏風の傑作3双、そろい踏み！（会期末2週間、5/22～6/3の展示）



今回の展覧会では初期洋風画について、もうひとつのみどころを用意しています。ひろがる大陸と海洋、点在する多くの都市、そこに住む数えきれぬほど多種多様な人々の存在。南蛮人が伝え、日本人の誰もが驚嘆した、この世界の姿も、やはりイエズス会系の日本人絵師が屏風絵として見事に視覚化しています。展覧会の終盤2週間には、この世界地図屏風の傑作3双、宮内庁三の丸尚蔵館「万国絵図屏風」、香雪美術館「レパント戦闘図・世界図屏風」（写真上上段）、当館「四都図・世界図屏風」（写真上下段）が、揃って展示されます。

第5章 キリシタン弾圧

東アジア諸国の中でも日本は、イエズス会による布教が最も順調に進みましたが、その勢力拡大を恐れた為政者による規制や弾圧は次第に強まってきました。慶長17年(1612)より徳川幕府は本格的な禁教を実施するようになり、1620年代になると各地で多数の信徒や宣教師が処刑される事態になりました。ヨーロッパ世界をも震撼(しんかん)させた日本の大殉教(だいじゅんきょう)。その様子を伝えた絵画作品やキリシタン検挙に使われた踏絵(ふみえ)の実物を展示します。



元和8年 長崎大殉教図

17世紀前半 イタリア内務省宗教建造物基金（ジェズ教会）蔵（全期展示）

日本各地で繰り返されたキリシタンや宣教師の殉教。その様子をローマまで伝えた絵画3点が、南蛮美術の「影」を物語る作品として今回展示されます。この絵は、元和8年(1622)、捕らえられた55人の信徒・宣教師が長崎で殉教する様子を描いています。火あぶりや斬首でつぎつぎと殉教する人々の中には、女性や子どもの姿も見られます。処刑の様子を実際に目にした日本人キリシタンが、マカオに逃れた時に描いた作品と言われています。

第6章 キリシタン時代の終焉と洋風画の変容

禁教により教会は破壊され、宣教師やキリシタン大名も国外追放されました。しかし、日本に留まった一部の宣教師たちとともにキリシタンたちは潜伏し、信仰を続けました。このような時代に描かれたザヴィエルの肖像は、これが秘かに礼拝されていた現地に伝えられ、奇跡的に残った資料です。このような作品を描いた画家たちの動静は明らかではありませんが、生命をかけて描き伝えられた初期洋風画を紹介します。



聖フランシスコ・ザヴィエル像

江戸時代初期 神戸市立博物館蔵 重要文化財

ザヴィエルは日本にはじめてキリスト教を伝え、1622年にカトリック教会の聖人に列せられました。1620年代の日本では、キリスト教は壊滅状態でしたが、この日本にゆかりの深い聖人の姿を礼拝することで、信仰を維持しようとする動きがあり、このザヴィエル像もそのような状況の中で秘かに描かれたものと考えられます。

第7章 南蛮趣味の絵画と工芸

異国といえば近隣諸国しか知らなかった日本に、突如現れた南蛮人。その衝撃は日本人の生活や文化に深く浸透しました。巷(ちまた)では南蛮人の衣装をまとった人々が繰り出し、日用の調度類や工芸品にも南蛮人や舶来品を意匠とするものが作られました。キリスト教に関係の深い洋風美術が消えゆく一方で、異国との交流を、福と富をもたらす縁起の良いものとして受容した、近世初期の南蛮趣味の諸相を追います。



花下遊楽図屏風図（部分）

桃山時代 サントリー美術館蔵

右隻に祇園社、左隻に上賀茂神社を配する六曲屏風。満開の桜の下で人々が野外遊樂に興ずるさまを描いています。写真は左隻の部分で、踊りの輪の中心に風流傘をさしたり、マントをつけて音頭を取る南蛮装束の人々が見られます。右隻で恵比寿や大黒に扮した人々が輪舞しているので、この南蛮人たちも福の神の一種と考えられます。もちろん、彼らは実際の南蛮人ではなく、日本人が仮装しています。

主 催：神戸市立博物館 日本経済新聞社 神戸新聞社 NHK神戸放送局

後 援：ポルトガル大使館 スペイン大使館 イタリア大使館
Instituto Camões テレビ大阪

特別協力：東京文化財研究所 サントリー美術館

協 賛：岩谷産業 みなと銀行文化振興財団

★入館料（常設展も合わせてご覧いただけます。）

	当日券	前売券 ※1	団体券(30名以上)
一 般	1300 円	1100円	1000 円
高校・大学生	900円	750円	700円
小・中学生	500円	350円	350円

※1：前売券は4月20日(金)まで発売。

※2：65歳以上で「神戸市すこやかカード（老人福祉手帳）」持参の方は当日一般料金が半額。

※3：障がいのある方は身体障がい者手帳・療育手帳などの提示で無料。

※4：神戸市および隣接6市1町、淡路3市、鳴門市、徳島市の小中学生は、「のびのびパスポート」の提示により無料。

「この展覧会、もう1回みたい！」と思ったら、半券を捨てないで！次回の観覧は《リピーター割引料金》でお得に。

この展覧会のチケットの半券を博物館券売で提示すれば、

団体料金（一般1000円・高大生700円・小中生350円）で同展覧会をご覧いただけます。



※「一般」のかたで、この展覧会を3回以上ご覧になりたい場合は、ミュージアムカードがお得です。博物館券売で発売中。くわしくは[こちらを](#)。

★図録など★

展覧会開催に合わせて、4月21日より図録を発売します。

1冊 2,500円

内容

サントリー美術館・神戸市立博物館で展示した全ての作品のカラー図版。

東京文化財研究所による光学調査で得られた貴重な画像。



A4変形版、263頁

論考など：「南蛮文化と洋風画の伝来」坂本満／「写実の起源 —ザヴィエル像と泰西王侯騎馬図の特質」岡泰正／「南蛮美術の光と影《泰西王侯騎馬図屏風》の謎に迫る」石田佳也／「《泰西王侯騎馬図屏風》の彩色材料」早川泰弘／「《泰西王侯騎馬図屏風》の画像情報化について—画像から見えた事実と深まる謎—」城野誠治／「《万国絵図屏風》の修理がもたらした成果と課題」太田彩／「ゆらぐ定説—徳川日本と初期洋風画の現実」塚原晃／「池長孟が夢見た『桃山の大大面』」勝盛典子／「サントリー美術館所蔵《泰西王侯騎馬図屏風》の下張り文書を読み解く」池田芙美／作品解説／年表・参考文献

※通販などの申込については、4月21日以降に神戸市立博物館（TEL 078-391-0035）までご連絡ください。

★関連イベント★

◆ 記念講演会

- ①「泰西王侯騎馬図屏風の謎を推理する」
日 時：4月28日（土） 14時～15時30分
講 師：岡 泰正（神戸市立博物館 展示企画部長・学芸員）
- ②「イエズス会 vs. 徳川日本 —初期洋風画の舞台裏を読み解く」
日 時：5月19日（土） 14時～15時30分
講 師：塚原 晃（神戸市立博物館学芸員）

会 場：神戸市立博物館 地階講堂

定 員：180人

※聴講無料（ただし、「南蛮美術の光と影」展の入館料が必要。
当日13時より講堂前で入場整理券を配布。）

◆イブニング・レクチャー（学芸員による展覧会の見どころ解説）

会期中の毎週土曜日 17時～17時30分

会 場：神戸市立博物館 地階講堂

定 員：180人

※聴講無料（ただし、「南蛮美術の光と影」展の入館料が必要。当日、先着順。）

◆合唱と古楽器の響き「ザヴィエルの足跡をたどって」

4月30日（月・祝）15時～16時30分

出 演＝ヴォックス・フマーナとアンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニ

※緋田芳江（ソプラノ）、栗木充代（アルト）、緋田吉也（バス&リュート）、
上野訓子（コルネット）、笠原雅仁（テノール、コルネット&リュート）

内 容＝聖フランスシコ・ザヴィエルの日本への足跡を音楽でたどります。16世紀の西洋音楽と日本との出会いに想いをはせ、桃山～江戸初期の日本の教会で歌われたであろう楽曲も再現します。合唱と、天正遣欧少年使節の奏楽を想定した古楽器演奏で、南蛮の時代へいざないます。演奏は神戸ルミナリエのコーラスを担当しているヴォックス・フマーナと、古楽器演奏のアンサンブル・プリンチピ・ヴェネツィアーニです。

会 場＝地階講堂およびエントランスホール

定 員＝180人

※聴講無料（ただし本展入館料が必要。当日午後2時より講堂前で入場整理券を配布。）

◆ポルトガルギターのしらべ「南蛮幻想—大航海時代の時空をこえて」

5月6日（日）14時～15時

出 演＝マリオネット

※湯浅隆（ポルトガルギター・ギター）、吉田剛士（マンドリン・マンドリュート・ギター）

内 容＝ポルトガルの大衆音楽・ファドや、大航海時代をテーマにした独自のオリジナル音楽によるインストゥルメンタル・コンサート（楽器のみでボーカル無しの演奏）。ポルトガルギターは、ポルトガルで独自に発展した6コース12弦の撥弦楽器で、哀愁あふれる音色が特徴。大航海時代や南蛮文化についてのトークも交えて、エンターテインメントとしてお楽しみいただきます。

会 場＝地階講堂

定 員＝180人

※聴講無料（ただし本展入館料が必要。当日午後1時より講堂前で入場整理券を配布。）

◆こどもの日スペシャル

展示会の見どころ解説を聞いた後、親子で展示会を鑑賞します。

日 時：5月5日（土・祝） ①午前の部：10時30分～ ②午後の部：13時30分～

定 員：各回100組（保護者含む）

対 象：中学生以下の子どもとその保護者

参加費：無料（保護者の方は「南蛮美術の光と影」展の入館料が必要）

申込方法：

往復はがきに参加希望時間の番号、子どもと保護者の名前、電話番号、返信用の宛名を明記の上、神戸市立博物館「こどもの日スペシャル」係まで。4月23日（月）必着。応募多数の場合は抽選。

◆こどものためのワークショップ

「立体屏風をつくろう！」

日 時：5月12日（土） 14時～16時

会 場：神戸市立博物館 考古学習室

定 員：20人

対 象：小学4年生～中学生

参加費：500円（保護者の方は「南蛮美術の光と影」展の入館料が必要）

申込方法：

往復はがきに参加希望講座名、こどもと保護者の名前、電話番号、返信用の宛名を明記の上、

神戸市立博物館「こどものためのワークショップ」係まで。4月23日（月）必着。応募多数の場合は抽選。

[開催概要](#) | [展覧会内容](#) | [入館料金](#) | [図録](#) | [関連イベント](#)